ご協力いただきましたみなさま、一年間ありがとうございました！

2016年7月24日「親子の日」スーパーフォトセッション終了後の記念写真

一年間を通じてサポートしてくださったみなさま、本当にありがとうございました！

◆青木俊一◆石井正人◆石尾さゆり◆石川亮介◆石川勝一郎◆石原繁◆石原幸◆磧貝日月◆井上佳子◆イノマタトシ
◆岩上円香◆上田壮一◆江口カエ◆大関和彦◆ブルースオズボーン◆実佳オズボーン◆由良オズボーン
◆隠岐浩史◆垣内ゆきこ◆梶原美紀◆金子涼子◆菅野幸男◆岸俊一◆木下聡◆小斎富士子◆櫻井武司◆佐藤仁
◆佐藤宏◆沢田節子◆沢田藍子◆沢田桃子◆志喜屋秀壮◆関智◆関宴子◆関ひばり◆袖岡敦史◆高須久絵◆田中勇樹
◆田原佳代子◆手塚俊兵◆中内朋子◆長塚かおる◆野知潤一◆樋貝美紀◆樋貝吉郎◆福原義久◆古河雄太◆古田裕江
◆松井ヒカル◆松井博司◆松浦有◆松崎稔◆三崎千香◆溝口まゆみ◆宮庄宏明◆元木行哉◆森田わかな◆森田似季
◆八木健太◆山田一彦◆八木健太◆山田一彦◆山田洋◆山田義章◆山辺真幸◆柚木公奈◆横山泰介◆渡辺熱

（あいうえお順・敬称略）

2017年の「親子の日」は
7月23日です

親子の日普及推進委員会
http://www.oyako.org

7月の第4日曜日は 親子の日 2016年 活動報告書

年に1度、親と子がともに向かい合う日があったっていい。
その日を通じて、すべての親子の絆が強められたらすばらしい。
そんな願いを込めて、7月第4日曜日を「親子の日」にしたいと私たちは考えました。
2016年は、7月24日が「親子の日」。
みなさまからのご協力をいただき、
親と子の距離がぐっと縮まる数々のイベントを開催し、
多くの共感をいただくことができました。

OYAKO DAY
2016
14TH YEAR

親子の日

© Photo : BRUCE OSBORN / OZONE INC. Illustration : YURA OSBORN Design : SETSUKO SAWADA

親子の日普及推進委員会
http://www.oyako.org

present to the future

5月第2日曜日は、母の日。6月第3日曜日は、父の日。

7月第4日曜日は、親子の日。

『生まれて初めて出会う「親」と「子」の関係を見つめることは、家族、地域、社会、そして自然をも含むすべての「環境」に敬意をはらい、平和を願うこと』という思いを込めて、2003年に「親子の日」のオリジネーター、米国人写真家ブルース・オズボーンは、7月の第4日曜日を「親子の日」として提唱しました。
その理念に共感し、＜世界中の誰もが生まれて来たことを喜べる世界の実現＞という願いを「親子の日」に込めて、親子の日普及推進委員会が発足。
14年目となった2016年の「親子の日」も、さまざまなイベントを通じて多くの素晴らしい出会いに恵まれ、非常に成果のあった一年でした。
海外の人たちにも「親子の日」の思いを共有したいという願いが具体化した2016年は、在シンガポール日本国大使館の主催により、シンガポールでの展覧会、写真撮影会などの実施も実現いたしました。

“present to the future”という「親子の日」のスローガンが表すように、「親子の日」に込めた思いは、きっと未来への宝物になると信じて、今後も活動を続けていきたいと思っています。

親子の日普及推進委員会
http://www.oyako.org

◆ブルース・オズボーン プロフィール http://www.bruceosborn.com/
Art Center College of Design で、コマーシャル写真を専攻。1980年の写真展「LA Fantasies」をきっかけに、日本での活動を本格的に開始。ボストン子供の博物館の企画展「TEEN TOKYO」では、東京のティーンエージャーを撮影して展示。ボストンの MCET 製作、インターネットを使っての双方向教育番組では8回にわたってディレクターを務め、アメリカの高校生にむけて“生の日本情報”を伝えた。
1982年から始めた「親子」写真の撮影は今年で34年目になり、撮影した親子の数は6000組を数える。
2003年より7月の第4日曜日を「親子の日」にと提唱したオリジネーターで、記念日協会にも登録。
2014年に同協会から「記念日文化功労賞」を授与。「親子」をテーマにした写真展は、日本外国特派員協会、横浜ランドマークタワー、山梨県立美術館、金沢21世紀美術館、愛・地球博園内愛知県児童総合センターなど、各地で数多く開催。2016年に在シンガポール日本国大使館 JCC において親子写真の展示会が実施された。2011年の6月から、「親子の日」公式プロジェクトとして被災地訪問を実施。また、「I TIE ☆ 会いたい」では、被災地でワークショップを実施。写真を中心に、子どもたちのネットワークづくりを構築。

＜写真集・著書＞
「親子」（デルボ出版）
「Oyako」（INKS INC. BOOKS）
「KAZOKU」（角川書店）
「ごめんなさい」（日本標準）
「反パンピ症候群」（ヒヨコ舎）
「親馬鹿力」（岩崎書店）
「この国の環境」
（アサヒビール・清水弘文堂書房）
「東日本大震災復興支援
ブックレット」
（親子の日普及推進委員会）

「親子の日」の普及推進にあたって、2016年度は右記の企業と団体のご協力をいただきました

● 特別協賛
OLYMPUS オリンパス株式会社
oticon PEOPLE FIRST オーティコン補聴器
DAC Group DACグループ
三菱地所・サイモン株式会社

● 協賛
東京都民銀行 TOKYO TOMIN BANK
Kyorin キョーリン製薬ホールディングス株式会社

● 特別協力
毎日新聞 毎日新聞社

● 協力
エプソン販売株式会社／株式会社円谷プロダクション
協同組合日本写真館協会／株式会社浪漫堂／株式会社琉球補聴器
お母さん業界新聞／株式会社 TSUTAYA

● 後援
J-WAVE ／よしもと PAPAPARK

● Special thanks
滋賀県米原市／石川県珠洲市／山口県下松市／ 愛知県児童総合センター
SPACEPORT Inc.／東京 YMCA"liby"／ＢＢスタジオ広尾／STUDIO BEARS
アライアンス・ポート／ 株式会社松竹マルチプレックスシアターズ
下松商業開発株式会社／ 一般社団法人日本記念日協会／ 鵠沼海岸チャンネル
鬼頭印刷株式会社／株式会社山田製油／岩下食品株式会社

ENERGY GREEN
「親子の日」の活動では、グリーン電力 (1,000KW) を利用しています
今年は「バイオマス」によるグリーン電力を選びました。
この電力の産地「南栄糖業和泊工場発電所」は、鹿児島の沖永良部島に位置します。

7月の第4日曜日は
親子の日

「親子の日」オフィシャルサイト　http://www.oyako.org

日・英バイリンガルの「親子の日」情報発信プラットフォームです。「スーパーフォトセッション」で撮影した写真の掲載、「写真コンテスト」と「エッセイコンテスト」の公募と入賞者発表、「親子大賞」の投票と発表など、公式イベント情報とともに、協賛企業での活用例、各地に広がる「親子の日」の情報を掲載しています。

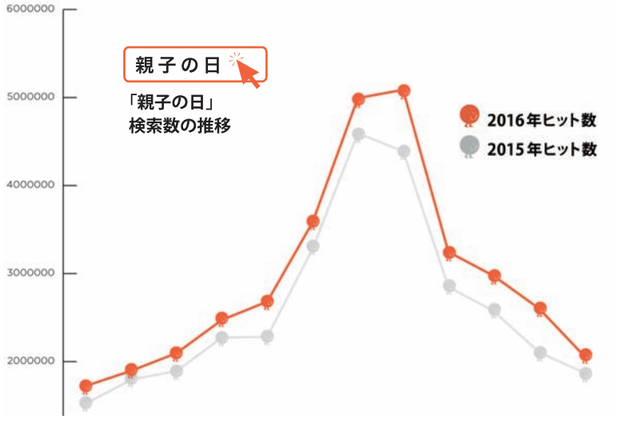
◆オフィシャルサイト

present to the future

ニュース、エッセイ、映画、ギャラリーほか、見ごたえ読みごたえのある内容を常時更新するコミュニケーションセンターです

◆SNSの活用

Facebook・LINE・Twitter・mixiなどのさまざまなSNSを活用して、今年も多くの人たちとのコミュニケーションをはかりました。2016年も、Google やYahoo! JAPANなどで「親子」を検索すると「親子の日」のオフィシャルサイトが常にトップにあり、「親子の日」に寄せられる関心の高さを実感しました。



「親子の日」2016年度の製作物

イベントを開催する際に、製作物を多くの方に手渡しました。積極的なプロモーション活動により、多くの方からの賛同をいただくことができました。

▼オリジナルポスター《B2サイズ…500枚》

＊協賛企業、写真館などでポスターを貼って普及に一役かってくれました

▼オリジナルエコバッグ《400枚》
親子ロゴを強調した赤のバッグを作成しました

▼ステッカー《1,500枚》

▲ピンバッジ《5,000個》

▲eBook 東日本大震災復興応援ブックレット
※協力：朝日メディアインターナショナル株式会社

◀うちわ
《1,500本》
※協力
株式会社TSUTAYA

Tシャツ《200枚》▶
今年も「親子の日」ロゴマーク入りのTシャツを限定数作りました

リーフレット▶
《三つ折り観音開き…10,000部》

▼「親子の日」フライヤー
《公式イベント紹介…30,000枚》

＊フライヤーは「親子の日」の普及、公式イベント告知に欠かせません
2016年も多くの人の協力で、たくさんのみなさまに手渡されました

▼「親子の日」特製インタビューボード《1枚》

＊「親子大賞」授賞式、「親子の日」インタビューほか、撮影の背景などに大活躍しました

▲のぼり旗
《30枚》

親子の日 の一日

ブルース・オズボーンが 2003 年に「親子の日」を提唱して以来続けている撮影イベントが 14 回目になりました。新聞や雑誌、インターネットを通じて応募してくださる方の数は年々増加。みなさまから寄せられた「応募の動機」に丁寧に目を通しながら撮影会にご招待する 104 組の親子を選びました。ボランティアスタッフの協力で、撮影が順調に進み、みんなそろって大切な思い出作りをすることができました。撮影した写真は、後日それぞれの親子に 1 枚ずつ送付。ウェブサイトとオリンパスギャラリーでの展覧会で紹介しました。

AM 7:00　スタッフ集合！

親子の到着を待つスタジオ

受付準備も入念に打ち合わせ

オンライン中継セッティング

AM 9:00　親子の日撮影会受付開始！

同意書に家族の名前を書き込みます

ブルース・オズボーン撮影応援団

受付が終わっていよいよ午前の部の撮影スタート

待ち時間に「親子の日」報告書を熟読！

はい「おーやーこー」！

PM 12:00　午前の撮影は順調に

PM 3:00　大人数でも気持ちはひとつ

「はい、こっち見てね〜！」

なごやかに撮影を待つ親子のみなさん

撮影した画像をバックアップ、その場で出力します

PM 6:00　ブルースの演技指導がはいります

参加者のみなさんにコメントを書いてもらいました

ブルースさんありがとう！

PM 8:00　104 組の親子撮影終了

撮影／宮庄宏明（オリンパス株式会社）

今年もオンラインで多元ライブ中継！

＊YouTube でネット配信

＊撮影中のブルースにもインタビューを

＊下松市とも中継ができました

＊イベント会場で「親子大賞」授賞式！

＊スーパーフォトセッションの様子も配信

「親子の日」当日、撮影スタジオとなったBBスタジオ広尾にインターネット放送局を開設。東京都内、山口県下松市、沖縄市、シンガポールの各地を繋いでライブ中継を行いました。また「親子の日」を応援していただいている湘南ビーチ FM の竹下由起さんの番組との電話中継は今年もまた実現。ゴダイゴのドラマー、トミー・スナイダーさんも飛び入りで出演！会場に来られない人たちとも「親子の日」の思いを共有することができました。
協力：鵠沼海岸チャンネル
MC：関 智

7月の第4日曜日は
親子の日

スーパーフォトセッションへの応募の動機／公式イベント

★写真とテキストは対応していません

スーパーフォトセッションで撮影した参加者の写真の一部と、みなさまからいただいた心温まるメッセージを紹介します。今年もまた、素敵な思い出を共有させてくださったみなさまに心から感謝いたします。

＊母と腕組みするなんて、大人になって初めて。「親子の日」は、少しの照れと恥ずかしさを隠しながら二つの家族が一つに繋がる大切な記念すべき日でした。

＊しょうがないよ、親子だし！！
もう、なんで親子なのよ…
やっぱり親子だね〜

＊長男誕生の記念にと応募したところ、運よく参加することができました。撮影当日は家族みんなで緊張していましたが、スタッフのみなさまの大変明るく温かい対応に心もほぐれ、とても楽しい思い出になりました。
できあがった写真も家族みんなのお気に入りとなり、宝物になりました。

＊待ちに待った「親子の日」当日は、楽しさと心配の気持ちが混ざって複雑な気持ちでしたけど、撮影スタジオのアットホームな雰囲気で、そんな心配は一瞬にしてなくなり、普段に近い状態で写真を撮っていただきました。YouTube にアップされている他の参加者の撮影風景を見て、親子それぞれにかたちがあるんだな〜としみじみ感じました。親になってまだ 3 年。毎日子育てに追われるだけで、ゆっくり立ち止まっていろいろ考える時間などない私たちにとって、「親子」ということについて客観的に自問する機会をいただいたフォトセッションでした。
我家のこれからは？？？どんなカラーの親子になっていくのだろう……楽しみです！
オズボーンさん、スタッフの皆様ありがとうございました！

＊「親子の日」に初めて参加させていただきました。プロのカメラマンに撮影をしてもらうのは初めてで緊張しましたが、オズボーンさんと他のスタッフの方が楽しく盛り上げてくださり、あっという間の撮影でした！
これからも親子の写真を撮り続けて、世界中をハッピーにしてください。

＊スーパーフォトセッションに参加させていただき、親子の写真を撮っていただいたこと、そしてまた他のたくさんの家族の撮影の様子を拝見したことは、私たちにとって自分たちの日常を見直す、とても良い機会になりました。 送っていただいた写真は、廊下に飾っており、毎日見ています。
当たり前のようにいつもそこにいる「親子」関係ですけど、「親子の日」をきっかけに、自分達の繋がりを確認し感謝しあうことを、これからも続けられたらと思っています。

＊とても素晴らしい、写真をありがとうございました。さっそく額縁を買って、玄関に飾りました。嬉しい時も、悲しい時も、この写真を見て親子の絆を深めていきたいです。
ありがとうございました。

＊「親子の日」の撮影イベントについて知った時、高齢で施設に入っている両親へのプレゼントにできたらと思って応募しました。ダメ元での応募でしたが、入選したという連絡を受け、家族全員のスケジュールを調整。撮影会に望みました。送っていただいた写真を両親に届けたときの様子は、今でも忘れられません。ありがとうございました。

＊たくましくなってきた子どもたちを応援する意味を込めて、撮影会に応募！３回目の挑戦で、やっと夢が実現しました。
できあがってきた写真は素晴らしく、子どもたちに素敵な贈り物ができました。「親子の日」という言葉の響きが大好きです。イベントに参加できたのを記念して、これからも家族で「親子の日」を応援します。

＊いろんな気持ちを、いっぱいつめ込めて参加した「親子の日」の撮影会！
親がいるから、命を授かる！
間違いなく、誰でも誰かの子！
当たり前の気持ちを感謝できる社会への希望を忘れないでいたいです。

＊何となく過ごしてしまっている毎日に、親子のありがたみは埋もれてしまいがちですが、「親子の日」は親子の大切さを改めて気付かせてくれる素敵な日です！
スーパーフォトセッションに参加できて最高に幸せでした！
＊共に笑い　共に泣き　共に喜び　共にいる
親子って最強の仲間だね。
＊遠く離れて暮らす家族が、一枚の写真で繋がりました。「親子の日」バンザイ！

＊友人から連絡をもらって、昨年の親子写真展示会を見に行った時、「来年は絶対応募しよう」と決心しました。
公募の時期を見過ごさないようにと、ドキドキワクワクしながら、「親子の日」の公式サイトをチェックして１年。スーパーフォトセッションに参加する権利が与えられた時は、天にも昇る思いでした。念願だった撮影会だったので、当日はとっても緊張してしまいましたが、送っていただいた写真には大満足。
「親子の日」のことを、もっとたくさんの人に知ってもらえるように、これを機会に応援していきます。

＊離ればなれに住んでいる私たちが一緒に集まれた「親子の日」でした。
撮影の後、温泉に行って楽しいひとときを過ごし、素敵な思い出の日になりました。
オズボーンさん、「親子の日」というステキなアイデアをありがとう！
「親子の日」が、これからもっともっと広がっていきますように！

7月の第4日曜日は
親子の日

親子の日 2016 写真コンテスト／公式イベント

13 回目となる「親子の日 2016 写真コンテスト」は、今年もオリンパス株式会社が運営する写真投稿コミュニティーサイト「FotoPus（フォトパス）」をプラットホームに公募。親子のさまざまな姿をとらえた 1341 枚の素晴らしい作品が、全国内外各地から集まりました。毎日新聞社においてブルース・オズボーンを審査委員長とした選考委員会で、厳正な審査を行ない、24 点の受賞作品が選ばれました。入選いたしましたみなさまには、証書とともに協賛企業からの副賞をお贈りし、「親子の日」の公式サイトでも発表しました。

◆親子の日写真コンテスト＜グランプリ＞

本当に素敵な写真がたくさんある中、選んでいただきありがとうございます。毎月撮っている家族写真がこのような賞をいただけてとても嬉しく思います。これからも家族写真をずっと撮り続けていきたいです。
「かくれんぼ」松田拓也

◆オーティコン みみとも賞

「嫁と姑」
ヒロ120

「お父さん、はやく！」
ガタリン

「セルカ棒でパシャリ」
yuki_piroro

◆三菱地所・サイモン賞

「ウサギ」親子と鹿ちゃん
Ivy

「初めての潮風」
UG-CLiP

「芝生滑り」
がちゃぴん 07

◆キョーリン賞

「ばぁ！」
sobasoba

「よーし、よーし！」
てらっち

「一緒に料理」
ykkomachi

◆毎日新聞社賞

「小さな写真屋さん」
ますちん

「家族」
momonchan

「スマホ遊び」
takaming

◆オリンパス賞

「兄弟集合」
水切り

「いざ行かむ」
青狸

◆DAC NIKI Hills 賞

「かぶりつき」
グリンデル

◆DAC 旅モニ賞

「そら逃げろ」
ここすけ

◆円谷プロ賞

「大好きな飛行機と」
takuto

◆エプソン賞

「あの日みんなで見た景色」
あっち 21

◆「親子の日」賞

「読書タイム」
ohky

「受け継いで」
yoshitakae

「親子の昼寝」
ゆうきまん

「ナイショばなし」
田舎蜜柑

「ママと富士山とぼく」
ユリ◎

親子の日 2016 エッセイコンテスト／公式イベント

第 12 回目をむかえた「親子の日エッセイコンテスト」には、学校単位での応募や海外からの応募も増え、910 点もの作品が集まりました。数々の異なる環境を背景に語られる親子のストーリーの一話一話にはだいじな思い出が込められていて、審査員それぞれの心に響きました。受賞者は以下の 20 名に決定いたしました。

◆オリンパス賞

泊 夏希（東京都）
「安心する声」

長友和久（熊本県）
「届いたやさしさ」

◆オーティコン賞

山口悠希（神奈川県）
「私の父は、かっこ悪い」

萩原純子（埼玉県）
「ままま」

山下さやか（福井県）
「父と丸い地球」

◆三菱地所・サイモン賞

江坂 亮（大阪府）
「反面教師」

直嶋 航（大阪府）
「亡き父の手帳から」

服部恵美（東京都）
「泣いた母鬼」

◆キョーリン賞

楢原香織（福岡県）
「私に２時間時間ができたら」

伊藤佳奈美（東京都）
「生きる喜び」

妹尾千夏（兵庫県）
「母が年齢を返上する理由（わけ）」

◆毎日新聞社賞

堤 葵（東京都）
「ころもがえにちょうせん」

植木詩織（鹿児島県）
「写真が伝えたこと」

今村達哉（大阪府）
「憎まれているんよ。」

◆円谷プロ賞

小林正和（埼玉県）
「ママを守るんだ！」

◆「親子の日」賞

長崎真比子（埼玉県）
「母は歌う」

中島さや香（長崎県）
「私のガソリンスタンド」

保田健太（神奈川県）
「未来への二人三脚」

山崎理恵（山口県）
「今日も母ちゃん発進！！」

尾方志帆（熊本県）
「優しいお父さんへ」

「親子大賞 2016」はウルトラセブンとウルトラマンゼロ親子に決定

「親子」について考えるきっかけになって欲しいとの願いから、輝いている親子を投票で選ぶ「親子大賞」を毎年実施しています。今年で 10 回目となる 2016年の「親子大賞」に選ばれたのは、ウルトラセブンとウルトラマンゼロ親子。新たに設けられた「親子大賞特別賞」は、昨年に引き続いて今年も多くのみなさまから支持を得た平原まこと＋平原綾香親子に授与されました。

「親子大賞特別賞」授賞式での平原まことさん（サックス奏者）と平原綾香さん（歌手）親子

親子で「親子の日」を応援してくださっている平原綾香さんの会報誌にも受賞の記事が掲載されました

7月の第4日曜日は
親子の日

オリンパス株式会社

「親子の日」設立２年目から応援を続けてくださっているオリンパス株式会社は、「親子の日」協賛企業として参加いただいた最初の企業です。応援をいただいて13年目となります2016年も、例年同様にオリンパス株式会社の公式ホームページトップで「親子の日」を告知してくださるなど、「親子の日」の普及にご尽力をいただきました。「親子の日」当日に行われたスーパーフォトセッションには、社員がボランティアとして参加してくださいました。

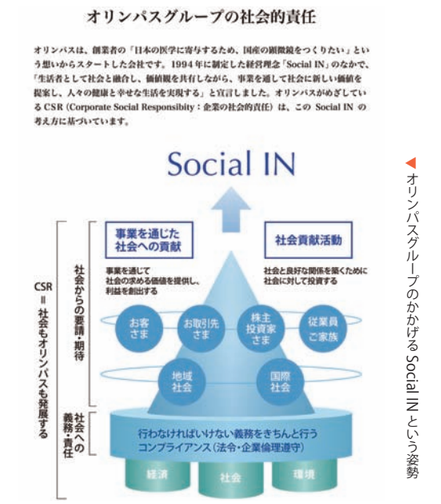
▲オリンパスギャラリー東京「親子の日」写真展での記念写真。左から小川治男オリンパス取締役、熊切圭介日本写真家協会代表理事、ブルース・オズボーン、井上佳子、大石直臣日本写真協会副理事のみなさん

▲オリンパスギャラリー大阪「親子の日」写真展

▲オリンパスギャラリー東京「写真の可能性」トーク

13回目を迎えた写真展〈親子の日2016～親子の日に出会った親子へ～〉は、オリンパスギャラリー東京(9/9～14)とオリンパスギャラリー大阪(9/30～10/6)において、親子の日普及推進委員会との共催で開催。会期中写真展会場でのトークショーでは、「親子の日」というソーシャルなアクションで写真に新たな可能性を見いだした経緯などについて発表しました。また、オリンパス株式会社が運営する写真投稿コミュニティーサイト「FotoPus（フォトパス）」では、今年も「親子の日写真コンテスト」を実施。「写真コンテスト」「エッセイコンテスト」「親子大賞」の授賞式も同社のイベントスペースにおいて実施。写真コンテストの特別賞には、デジタル一眼カメラ OM-D E-M10 Mark II 14-42mm EZ レンズキット他をご提供いただきました。

▲「FotoPus」サイト「親子の日写真コンテスト」応募窓口。特別賞はデジタル一眼カメラ！



◀オリンパスグループのかかげるSocial INという姿勢

▲オリンパスウェブサイトのトップページ画像

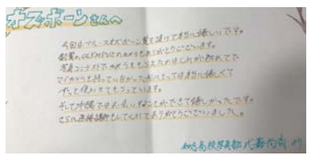
▲在シンガポール日本大使館で開催された写真展。Olympus Singaporeからも協力いただくことができました

▲展覧会中のイベント企画

高校生フォトグランプリ

オリンパス株式会社が協賛する写真コンテスト「高校生フォトグランプリ」（日本写真芸術専門学校主催）の審査会に、今年もゲスト審査委員としてブルース・オズボーンが招かれました。「ブルース・オズボーン賞」は、沖縄県知念高校写真部の比嘉尚哉くんに決定。10月に行われた沖縄県立博物館・美術館での展覧会会期中の最終日に、会場を訪れた比嘉くんと会って、祝福のメッセージを贈りました。

▲「高校生フォトグランプリ」審査委員のメンバー



オーティコン補聴器

特別協賛企業として、2016年も「親子の日」を応援してくださったオーティコン補聴器は、全国の販売代理店を通じて招待された５組の親子が、「親子の日」スーパーフォトセッション前日に上京して東京見物をする恒例の「みみとも親子ツアー」を実施。５組の親子は翌日行われたスーパーフォトセッションに参加しました。撮影した写真は後日オーティコン補聴器から参加者に贈っていただき、「親子の日」を伝えるためのプロモーションを幅広く展開してくださいました。また、沖縄に本社を持つ株式会社琉球補聴器の主催イベントにおいて大きな力を発揮してくださり、「沖縄の親子」撮影会や、沖縄県立博物館・美術館での写真展などの成功を導いてくださいました。

▲11月６日、「波の上うみそら公園」での撮影会には沖縄在住の親子33組が招待されました

▲「みみとも親子ツアー」宣材物の数々

▲展覧会初日の会場にはTVや新聞など、たくさんのメディアが来てくださいました

◆毎日新聞、沖縄タイムス、琉球新報、時報光学新聞など、多くのメディアによってイベントの様子が報じられました

7月の第4日曜日は
親子の日

DAC グループ

DAC グループは、2013 年から「親子の日」特別協賛企業として普及推進のお手伝いをしてくださっています。中でも、DAC 未来サポート文化事業団の主催による、「親子の日 絆 (KIZUNA) コンクール」は、すでに第 4 回となり、今年も、東京都内、北海道余市郡仁木町・大分県杵築市の小学生を対象に、作文＋絵（もしくは写真）の作品を募集しました。審査会では、ブルース・オズボーンを審査委員長に迎え、最優秀賞と優秀賞を選出。最優秀賞を受賞した 8 組の内、3 組の親子には、特典として 8 月 1 日～ 3 日に東京旅行、5 組の親子には 8 月 5 日～ 7 日に北海道旅行が贈られました。受賞者はこの旅を通じて、親子の絆を確かめあう楽しい時間を過ごすことができ、絆（KIZUNA）コンクールの趣旨としても満足できる企画となりました。

▲親子の日 絆 (KIZUNA) コンクール」受賞者と記念写真を撮る DAC の石川和則社長と審査委員会メンバー

三菱地所・サイモン株式会社

特別協賛企業として「親子の日」の普及に協力をいただいて 3 回目になる三菱地所・サイモン株式会社は、今年も、仙台泉（宮城県仙台市）、あみ（茨城県稲敷郡阿見町）、酒々井（千葉県印旛郡酒々井町）の 3 つのプレミアム・アウトレットにお客様を招待しての親子写真撮影会を実施。お客様にも高い評価のイベントを行うことができました。

▲スタッフとも意気投合。地域のお客様とのコミュニケーションにも一役買っています

キョーリン製薬ホールディングス株式会社

長年、「親子の日」を応援し続けてくださっているドクタープログラム株式会社（トリニティーライン）は、2015 年から、キョーリン製薬ホールディングス株式会社の一員として、「親子の日」を支えてくださっています。今年も、「親子の日」当日の撮影に、トリニティーラインの応募者の中から選ばれた 2 組の親子をスーパーフォトセッションにご招待。また、Web や会報誌を中心に「親子の日」に込められたメッセージのプロモーションを展開して、たくさんの人たちに配信してくださいました。

株式会社円谷プロダクション

数多いイベント会場でのチラシ配布や WEB で「親子の日」の記事掲載など、たくさんの会員にむけて「親子の日」プロモーションをしてくださいました。 今年の「親子大賞」はウルトラセブンとウルトラマンゼロ親子に決定！池袋サンシャインシティーのイベント会場で「親子大賞」授賞式のセレモニーを行ないました。

株式会社 TSUTAYA

夏休みが始まったばかりの 7 月 22 日、東京ビッグサイトで行われた「夏休み 2016 ★宿題自由研究大作戦」の「TSUTAYA キッズ記者会見」に、ブルース・オズボーンと井上佳子が登壇。小学生を対象に「親子の日」について話をしました。トークのあとには各自で新聞を作る作業もあり、記者を体験しながら親子というテーマと向き合った小学生たちは生き生きと新聞作りに取り組んでいました。また「親子で観たい映画 100 選」という企画の実施を通じて「親子の日」普及のお手伝いをしてくれました。

エプソン販売株式会社

「親子の日」当日に行うスーパーフォトセッションの会場で必要な、モニターやプリンター、当日の印刷出力用紙とインクは、今年もエプソン販売株式会社にご提供いただきました。9 月のオリンパスギャラリーでの親子写真展示会での作品制作にもご協力いただきました。

毎日新聞社

特別協力として応援してくださっている毎日新聞社が「親子インタビュー」の記事を定期的に紙面展開してくださるようになってから 8 年目になります。毎回紙面には、さまざまなフィールドで活躍する親子が登場。出演した親子によって語られた貴重な親子のストーリーは、読者にとって「親子」について考える大事なきっかけとなったことと思います。また、紙面出演交渉にも本プロジェクトの担当者が一丸となって取り組んでくださいました。

★ 毎日新聞「親子インタビュー」シリーズ

▲萩原雅子×萩原智子親子 ＊5 月 8 日（日）掲載

▲梅沢富美男×池田名津美 親子＊6 月 19 日（日）掲載

▲穂積盛子×穂積絵莉親子 ＊12 月 27 日(火)掲載

▶武藤敬司×武藤愛莉親子 ＊7 月 24 日（日）掲載

▶6 月 26 日「人・模・様」

▶映画「OYAKO」自主上映会

◆連載中の「親子インタビュー」以外にも、たくさんの記事を掲載してくださいました

7月の第4日曜日は
親子の日

「親子の日」イベントマップ

「親子の日」各地のイベント情報マップ

★画像の脇に明記した数字は各々のイベントに関する詳細が掲載してあるページです

日本各地および海外（シンガポール）で「親子」をテーマにしたイベントが年々増加しています。
公式サイトの「各地のイベント」にさまざまな内容のイベントの登録があることは、
生活のすべてと「親子」というキーワードに接点があることの証ではないでしょうか。

シンガポール

P20

P17

愛知県長久手市
家族の嬉しい顔写真募集

栃木県鹿沼市
親子の日キャンペーン

東京都墨田区
すみまめカフェワークショップ

茨城県取手市
映画「OYAKO」上映会

P17

P19 沖縄県本部
もとぶ手作り市

P12 沖縄県那覇市
親子の写真展

P12 沖縄県那覇市
沖縄の親子撮影会

P17

P23 神奈川県湘南辻堂
湘南スタイル撮影会

P18

神奈川県横浜市
カメラのキタムラ

岡山県倉敷市
児島市民交流センター

P13 東京都台東区
親子の日 絆(KIZUNA)コンクール

P17

P22 神奈川県葉山町
葉山マリンフェスタ

P17

P19 山口県下松市
くだまつ親子の日フェスタ

P17

P11 大阪市西区
オリンパスプラザ大阪文化祭

P18 千葉県浦安市
親子写真の展示会

山形県山形市
INNOCENT

P18 大阪市豊中市
豊中ライオンズクラブ

宮城県遠田郡
柏谷写真撮影

P19 福島県
ふくしま「ふるさと写真の日」

P21 東京都渋谷区
havesomefun

P12 東京都渋谷区
みみとも親子ツアー

P17

P11 東京都新宿区
オリンパスプラザ東京夏フェス

埼玉県所沢市
親子でシェアメニュー

岩手県岩手郡
小岩井農場

東京都江東区
親子丼フォト

青森県八戸市
アロマで親子のふれあい時間

P22 神奈川県逗子市
逗子高校ワークショップ

P17

P13 宮城県仙台市
仙台親子撮影会

P17

P14 東京都江東区
TSUTAYA キッズ記者会見

P17

P13 千葉県酒々井市
酒々井親子撮影会

P17

P13 茨城県稲敷郡
あみ親子撮影会

愛媛県松山市
松山の親子撮影会

P21 神奈川県葉山町
親子で楽しむ GW

栃木県足利市
親子の絆撮影会

P17

P14 東京都豊島区
「親子大賞」授賞
セレモニー

神奈川県横浜市
親子で苔玉作り

東京都江東区
江東区で親子撮影会

東京都港区
FOTOWA

7月の第4日曜日は
親子の日

協同組合日本写真館協会の取り組み

▲協同組合日本写真館協会 B2 ポスターには、昨年の「親子の日」キャンペーンに参加いただいた写真館の応募写真から選ばれた写真を使用。写真館との接点がさらに大きくなりました。
photo by 武藤芳行 / 秋父写真館（埼玉県）

▲写真館協会の公式サイト

2016年の「親子の日」に参加していただいた写真館は 75 店舗でした。それぞれの写真館で撮影された写真の中からセレクトした写真は、オリンパスギャラリーで行ったブルース・オズボーンの写真展と同時に展示し、「親子写真マイスター」という称号が授与されました。今後、たくさんの写真館に参加していただける事業としてこのイベントが定着していくためには、まだ改良点もありますので、次年度に向けて試行錯誤を重ねていきたいと思います。協同組合日本写真館以外の写真館も参加してくださったことも追記させていただきます。

TOPIC

▲全国の写真館が出店した第 10 回日本写真館コンテストで、審査委員のブルース・オズボーンが「親子の日普及推進委員会賞」として選んだのは、千葉県茂原市で奥田写真館を経営する、奥田高宏さんが撮影した「家族の歴史」でした。

★受賞作品へのコメント　ブルース・オズボーン

画面から放たれる家族の喜び、被写体家族と過ごした時間を慈しみともに楽しむカメラマンの温かな思い。そんな気分がストレートに伝わってくる、奥田高宏さんの「家族の歴史」という写真を見た時、「親子の日」のモットー“present to the future ～未来への贈り物～”というメッセージを素直に受け取ることができて、審査をする私も嬉しくなりました。上手に写真を撮るための基本として、技術力はもちろん不可欠ですが、できあがった写真から香り立つ撮った人の人格も非常に重要な要素です。今回「親子の日普及推進委員会賞」を受賞した奥田さんの作品は、楽しいアイデアだけに留まらず、写真としてのだいじな要素をきちっと納めており、受賞にいたりました。

★受賞者のコメント　奥田高宏（奥田写真）

この度は、思いもかけず大きな賞をいただき驚きと感謝でいっぱいでございます。 選んでいただきどうもありがとうございました。 こちらのご家族は、毎年のように撮影に足を運んでくれる笑顔が素敵なご一家でございます。 ご家族の数年に渡る歴史を一枚の写真の中に表現できたら…と思い撮影した作品です。 ご結婚されてご長男を授かった頃の写真と、弟さんが増え更に三人目の新しい命を授かって『幸せに満ち溢れた』そんな瞬間にシャッターを切れたことがとても幸せと誇りに感じております。 これからも、素敵な親子と素晴らしい家族の記録を撮り続けてお客様の幸せに貢献していけたらと思います。

オリンパスギャラリー東京／大阪に、写真館が撮影した「親子写真」が展示されました！

▲オリンパスギャラリー写真館の「親子の日」展示コーナー

毎日新聞に掲載された「親子の日」に参加した全国写真館のリスト

▲協同組合日本写真館協会が隔月で発行する「ザ・写真館」には、毎号「親子の日」通信として「親子の日」の情報が掲載されています

地域奉仕団体 豊中ライオンズクラブ

大阪府豊中市で杉本写真場を営まれている杉本彩二郎様（写真館協会会員）の企画によって、結成 55 周年となる地域奉仕団体豊中ライオンズクラブ記念事業で、映画「OYAKO」の上映会をしていただくことができました。2 月 7 日にエトレとよなかで行われた上映会は、200 人を超える来場者で賑わい、「親子」について改めて考える時間を持っていただくことができました。

子どものための カメラマン体験

江八幡市鷹飼町の写真館「エクボスタジオ」で 24 日の「親子の日」に開かれた、子どもが親を撮影する「子どものためのカメラマン体験」の様子。

東京ベイ舞浜／ホテルクラブリゾート

ディズニーランドに隣接する東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾートで、7 月 8 日から 24 日、「親子の日」のプロモーションとしてイベントが展開され、ブルース・オズボーン撮影の親子写真がホテルのロビーを飾りました。また、ホテル内に店舗を構える秋山写真工房が、宿泊者の中から希望があった親子の写真を撮影するサービスを実施しました。

7月の第4日曜日は
親子の日

自治体との取り組み

◆ 山口県下松市

2013 年に「親子の日」を公式に条例化した山口県下松市では、今年もさまざまなイベントを企画。親子が近づくための町ぐるみの事業が繰り広げられ、ラジオや新聞のメディアでも多く取り上げられました。

◆ 沖縄県本部町

数年前から沖縄県本部町で「親子の日」の普及のために親子写真撮影をしてきた写真家の石引まさのりさんの努力が実って、7 月 17 日に「もとぶ手作り市&親子の日写真撮影会」が町営の企画で開催されました。今後も続くイベントになるようですので楽しみです。

◆ 福島県

平成 28 年度地域経済産業活性化対策（被災 12 市町村における地域のつながり支援事業）～ふるさとアイデンティティのつながり継承事業～として採択されたプロジェクト〈ふくしま「ふるさと写真の日」〉に参加。11 月 24 日から 29 日の 6 日間、福島県の被災地を訪れて親子写真の撮影をしました。2013 年以来の訪問で撮影した写真は、2017 年 2 月から、東京、郡山市、福島市などの皆さんに見ていただくために巡回展が企画されています。

▲ 4 年ぶりに会った林親子。息子さんはお母さんの背丈より大きくなっていて時間の経過を感じました

◆ 茨城県取手市

取手市制施行 45 周年記念事業の一環として、取手ウェルネスプラザにおいて映画「OYAKO」の上映会が 1 月 31 日（日）に行われ、取手市民のみなさまのお祝いとして参加させていただきました。

◆ 滋賀県米原市

2010 年に「親子の日」の制定をした米原市では、今でも変わらない「親子の日」への応援をしてくださっています。今年も市の有志から「親子の日」に参加したみなさまに笹茶が届きました。

米原市から贈られた笹茶のパッケージ

「親子の日」の海外遠征

◆「親子の日」シンガポール

海外はじめての展覧会、映画上映会、写真撮影会が、2 月 19 日～3 月 12 日、在シンガポール日本国大使館 JCC (Japan Creative Centre Embassy of Japan in Singapore) の主催で実施されました。大使館の協力で親子写真の撮影も実施され、「親子」という意識が世界に共通することを実感。実りが多い事業となりました。
本事業は、「親子の日」の特別協賛社のオーティコン補聴器とシンガポールのオーティコン現地法人、オリンパス株式会社とシンガポールオリンパスの協力をいただきましたことを、感謝とともに報告いたします。

▲ イベントの様子が常に掲載されている JCC の公式ページ

▲ JCC 内のギャラリーでシンガポールの親子撮影風景

▲ 中国の最大新聞「Lianhe Zaobao」の取材を受けて紙面に掲載

▲ 写真展「親子」の展覧会オープニングセレモニーには、地元のメディアを含め多くの文化人の参加がありました

▲ 日本・シンガポール外交関係樹立 50 周年記念事業シンボルマークを持ち、在シンガポール日本国大使の竹内ご夫妻と

▲ 被写体となった方々も家族、親戚、友人を誘って来場してくださいました

▲ 6 月 2 5 日の上映会（Tampines West CC, Basketball Court ）は、たくさんの観客で熱気に溢れました

▲ イベントの告知チラシ

7月の第4日曜日は
親子の日

◆《親子で楽しむ GW in まなばんば葉山》

神奈川県
まなばんば葉山
５月1日～8日

葉山に新しく開設されたアフタースクール「まなばんば」企画で、葉山芸術祭参加イベントとして、写真展が行われました。5月４日には映画「OYAKO」の上映会と親子写真撮影会も同会場で行なわれました。

◆《JPS7 2016 my life4》

東京／リコーイメージングスクエア新宿
7月20 日～25 日

日本写真家協会同期生メンバーによるグループ展「JPS7 2016 my life4」が、リコーイメージングスクエア新宿で開催。シンガポールで撮影した親子写真をはじめて展示しました。

▲カラフルな衣装を活かすために、新しい試みとして親子写真はカラーで展示しました

◆《親子のカタチ展》

東京／東急百貨店本店
7月22 日～27 日

東急百貨店本店 3F イベントサロンにおいて、「Have some fun!」の企画によるイベントが行われました。会期中同会場でブルース・オズボーンの親子の写真展も実施され、会場を訪れた親子連れに「親子の日」について知っていただくことができました。

◆《放課後ＮＰＯアフタースクール５周年記念交流会》

東京／日本財団ビル
７月９日

放課後ＮＰＯアフタースクール５周年記念交流会で、参加者の親子の撮影をして、できあがったプリントをプレゼントしました。参加者の中には「親子の日」のことや、ブルース・オズボーンのことを知っている人もいて、和やかな撮影会となりました。

◆《葉山マリンフェスタ》

神奈川県／ Barefoot Studio
９月4 日

今年で７年目となる葉山マリンフェスタに「親子の日」が参加。会場となった神奈川県葉山公園下の大浜で、撮影会「BRUCE OSBORN-Barefoot Studio」を実施。会場を訪れた親子の写真を撮ってプレゼントをしました。当日は、天候にも恵まれ、潮風が心地よい浜で、たくさんの親子と楽しい時間を過ごしました。

青い空と海に囲まれた Barefoot Studio に集まった親子の笑顔は満開

◆《逗子高校でワークショップ》

神奈川県立逗子高校
１月25 日・２月1 日

総合学習の一環で実施している「神奈川県立逗子高校」のワークショップが２日間に渡って行われました。ブルース・オズボーン講師の授業は「写真の可能性」がテーマ。東日本大震災後に東北で行ったワークショップ〈I TIE ☆ 会いたい〉の形式を生かして生徒たちが日常の声を写真に収めました。作品は、逗子市の市民センターで行われたイベントで展示。ワークショップの成果を町の人たちに見てもらうことができました。

◆東久邇宮文化褒賞を受賞

「親子の日」のオリジネーター、ブルース・オズボーンと井上佳子が、11 月２日、東久邇宮文化褒賞を受賞いたしました。東久邇宮文化褒賞は、高松宮賞、秩父宮賞とならぶ宮賞の一つで、社会、文化、経済、政治等に功績のあった人や活動に対して顕彰する賞です。今回の受賞は、ブルース・オズボーンの写真家としての功績と、「親子の日」を通じた社会的活動を評価されての受賞です。

▲賞状を手にして喜びのブルース・オズボーンと井上佳子両氏

◆セレモ

一般社団法人全日本冠婚葬祭互助協会会員、千葉県船橋市に本社を持つ株式会社セレモが発行する折り込みチラシに、親子写真を使っての「親子の日」プロモーションが今年から始まりました。

7月の第4日曜日は
親子の日

国内メディア情報／雑誌・新聞・書籍

◆ 雑誌

＊湘南スタイル

インテリアショップ ACTUS の協力を得て、「湘南の親子の日」の撮影会が、神奈川県辻堂にあるテラスモールで行われました。撮影した写真は、「湘南スタイル」に掲載。写真は、神奈川県辻堂テラスモールにある ACTUS の店内に展示後各親子にプレゼントをされました。

＊つくばスタイル

年 2 回発行の冊子「つくばスタイル」が企画した撮影会が、つくば駅近くの「LALA ガーデンつくば」で実施されました。

▲筑波にも「親子の日」を！新しい人たちと会える機会でした

＊日本カメラ 8 月号

オリンパスが「日本カメラ」に連載中 の「I have a “PEN“」にブルース・オズボーンが登場。特別協賛のオリンパスが発売中の OLYMPUS PEN を使い、「親子」の写真とはひと味違った写真の世界を紹介しました。

◆新聞

＊お母さん業界新聞

全国で 10 万人の読者を持つお母さん業界新聞は、「スーパーフォトセッション」で撮影した親子写真をインタビュー記事とともに毎号掲載して「親子の日」を盛り上げてくださいました。
また、お母さん業界新聞の編集長をしている藤本裕子様が、今年あらたに「親子大使」に加わってくださいました。

▲「お母さん業界新聞」親子写真

◆書籍

＊記号の大百科

「親子の日」のロゴマークが「記号の大百科」に紹介されました。

＊静岡市美術館ワークショップシリーズ記録集

「親子の日だ！ブルース・オズボーン親子撮影会～未来の私たちへの贈り物～」が、静岡市美術館のアーカイブとして記録されました。

国内メディア情報／テレビ・ラジオ

◆ テレビ

＊ BS ジャパン／わたしが日本に住む理由

8月29日（月）の 21:00～21：55、高橋克典が MC をつとめる BS ジャパンの「わたしが日本に住む理由」でブルース・オズボーンを特集。今にいたる経過と現在の様子が紹介されました。

＊日テレ／ NEWS24

「親子の日」を紹介してくださった「日テレ NEWS24」の大きな反響のおかげで、番組を見た方がたくさん展覧会に足を運んでくださいました。

◆ ラジオ

＊ニッポン放送／おしゃべりラボ～しあわせ Social Design ～

毎週土曜日の朝放送している番組「おしゃべりラボ～しあわせ Social Design ～」に、6 月 25 日と 7 月 2 日の 2 回にわたって出演しました。パーソナリティーは、立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科の中村陽一教授。コメンテーターは残間里江子さん。「親子の日」を通じてどんな Social Design ができるのか？　私たちが常にテーマとして考えていることを電波を通じてたくさんの人に聞いていただくことができました。

＊ InterFM ／ Barakan Beat

映画「OYAKO」にも出演してくださったピーター・バラカンさんも「親子の日」の応援をしてくださっています。

＊ FM ODAWARA ／ FM おだわらインフォメーション

箱根写真美術館副館長の遠藤詠子氏の番組「箱根 WORLD VISION」に出演し「親子の日」を通じて発見する写真の話しをしました。

＊ Inter FM ／ LAZY SUNDAY

以前、親子撮影会に参加してくださった GEORGE COCKLE さんも「親子の日」応援メンバーです。今年も番組を通じて、「親子の日」の応援をしてくださいました。

7月の第4日曜日は
親子の日

国内メディア情報／ウェブサイト

＊ infoseek

＊ 高橋克典オフィシャルブログ

＊ EventLink

＊ 九州ビジネスチャンネル

＊ bishamon

＊ WRESTLE-1

＊ デジカメ Watch

＊ heartfulphoto

＊ メオトーク

＊ 梅沢富美男オフィシャルブログ

＊ Summer Walkerplus

＊ 財経新聞

＊ 朝日新聞 DIGITAL

＊ mamari

＊ Net IB News

＊ コトバンク

＊ イベントサーチ

海外メディア情報／ウェブサイト

＊ arthop

＊ allevents.in

＊ Hai! Japan

＊ design you trust

＊ KANSAI ART BEAT

＊ one inch punch

＊ HMW

＊ meet up

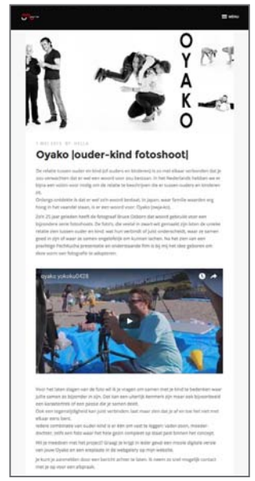
＊ pinterest

＊ ECGADGET.COM

＊ japan attractions

＊ NeoWeeWu

＊ fotostudio eindhoven



＊ ArtCenter College of design

＊ The Neo Dimension

応援メッセージ

素敵なメッセージを送ってくださったみなさま、ありがとうございました！

「親子の日」を応援してくださっている「親子大使」からのメッセージ、メールでいただいた応援メッセージ、Facebook、Twitter、Instagram などの SNS に投稿してくださる「親子の日」やブルース・オズボーンに宛てたメッセージや写真など。すべてが私たちへのパワーになります！

ゆたか >>
企画会社で企画の仕事をしています。ビジネスとソーシャルアクションを結びつけた内容にするため「親子」というキーワードで何かできないかと検索し、「親子の日」のサイトを発見。素敵ですね！オズボーンさんの撮った親子写真も、素晴らしいです。まだどんな企画にするかは未定ですけど、今からワクワクしています。

dada >>
このまえ「親子の日って知ってる？」って先輩に聞かれてはじめて「親子の日」のことを知りました。私も写真が大好きなので、今度両親と一緒に我家の「親子の日」記念写真を撮ろうと思います。きっと「親子の日」は沢山の人に幸せを運んでくれる日になりますね。

さく >>
新聞の記事で「親子の日」があるということを知りました。離婚して以来なかなか会うチャンスがなかった親子ですが、最近たまに会えるようになった子どもたちを誘って撮影会に参加できたらと思って応募しました。実現できるか分かりませんが、思い切って誘ってみます。「親子の日」という素晴らしいイベントを考えてくださって本当に感謝します。

やす >>
愛情たっぷりな作品が素敵なオズボーンさんの作品展に行くと心が安らぎます。今 6000 組の親子撮影をしたということですが…。10000 組の親子に出会うまで撮り続けてください。応援しています。

Q >>
オズボーンさんの出演しているテレビ番組を見たのがキッカケで「親子の日」を知りました。早速、写真集を購入しました。そのあとも、オズボーンさんの事をインターネットで検索したら、「親子の日」関連のニュースがいっぱい。「親子の日」に込めたメッセージを読んでまた感動！新しい写真集を出版してください。

ここ >>
父から「７月２４日に撮影会があるから行かないか？？」といわれ、狐につままれているような気持ちでその日を迎えました。ナント、父と行った先は〈ブルース・オズボーンのスーパーフォトセッション〉の会場。たくさんの人がいる中で親子揃って撮影されるのはものすごく緊張して自分たちがどんなふうに写ったのか撮影のあとも心配でした。そんな心配を払拭してくれたのが２カ月後に贈られて来た写真。撮影会に行ってヨカッタと思いました。父のことを「家族に全然無関心！」と思いこんでいたので、改めて父を見直す機会にもなりました。送っていただいた写真は、早速玄関に飾りました。

あやや >>
子どもを授かってからというもの、数えきれない程子どもの写真を撮ってきましたけど、気がついたら自分の写真が数える程しかないことに気がつきました。たまたま写真館のウインドーに「親子の日には写真館へ」というポスターを見たので、子どもと一緒に写真館に行って写真を撮ってもらいました。来年もまた、写真館で親子の写真を撮ってもらって、私たち親子の歴史を記録して行こうと思いました。「親子の日」という言葉、本当に素敵ですね！

山田 >>
親子喧嘩のあと、コンピューターで「親子」という言葉を検索していたら、「親子の日」という言葉に出会いました。
癇癪を起こすと理性のカケラも何もかもなくしてしまう情けない母親の私を、HPいっぱいの親子写真が優しく癒してくれて、猛反省しました。

メモリ >>
大切な母との思い出を書き綴ったエッセイを「親子の日」のエッセイコンテストに投稿したら入賞しました。「親子の日」のことを教えてくれた友人がそれを知って、お祝いのメッセージを送ってくれました。一緒に喜んでくれた友人のおかげで、喜びが倍になりました。選んでくださった審査委員の皆様、ありがとうございました。

あだん >>
私の将来の夢は写真家です。とくにポートレートを撮るような仕事を目指しています。こんなふうに思うようになったのは、オズボーンさんの写真展を見に行ってからです。被写体の心に近づいて、心が和んだ瞬間を撮るオズボーンさんのような写真を撮れるようになりたいと思っています。
オズボーンさんの写真展に誘ってくれた友人に感謝しないと……。

すいか >>
三代続いた写真館を経営しています。今まで気になっていた「親子の日」に、初めて撮影会を開催いたしました。まだみなさん知らない人が多いので、今年は 5 組の親子の参加者でしたけど、たいへん喜んでいただくことができました。写真館には地元の人たちの記念日や地域のイベントを記録してきたという歴史があります。今回「親子の日」というイベントを実施してあらためて自覚した写真館としての使命。写真館としての新しい方向が見えたように思いました。

さき >>
写真館につとめる私は、今年初めて「親子の日」の撮影会を実施してみました。一日中撮り続けるというのはけっこう大変でしたけど、みんなの笑顔と笑い声がそんな体力的な疲れはいやしてくれました。今年で 14 回目を迎えたという親子の日普及推進委員会のみなさまも、引き続き頑張ってください。来年の「親子の日」に撮影会をしたいと思っています。

しずえ >>
「親子の日」には優しい響きがありますね。親子という最小限の絆をしっかり見つめることが、世界の平和に繋がるという『親子の日』に込められただいじなメッセージが心に響きました。
「親子の日」の応援します。

どれみ >>
ブルースさんの写真撮影会に参加！今までできなかった親孝行がやっと出来ました。「親子の日」があったからこそです。ありがとうございました。

愚の骨頂 >>
他愛無いことで朝から息子と大喧嘩！！ つい忘れがちな当たり前な幸せ。気がまわらずに傷つけあってしまう愚かな親。
猛反省！！！
息子が帰ってきたら、優しく迎えてあげようと心に誓いました。
今日は「親子の日」だそうです～

「親子大使」からのメッセージ

「親子の日」が「分離の病」を治す

古往今来という言葉があります。昔から今に至るまでといったごく当たり前の言葉ですが、今ではほとんどの若者が知りません。われわれは分離の病に憑かれているのです。人類来し方の潮流を、点でしか見れない、時空を超えた視点で世界を観る力を失っているのです。
「われわれは、どこからきて、いまどこに行こうとしているのか」この命題は、人、集団、組織、社会、国家、延いては自然を含めた生命すべてに、いつも付きまといます。ブルースさんと佳子さんの仲間は、この命題の重要性を「親子」という、最も基本的なところで人びとに提示してくれています。
「親子の日」という企画は、「親子」から「親子孫」という形でさらなる発展を遂げる可能性を秘めています。日本語は、「親子」という言葉をもっています。ブルースの仲間は、いつかこのすばらしい日本語を発酵させてくれるでしょう。

陽 捷行
前北里大学副学長
財団法人農業・環境・健康研究所理事
北里大学名誉教授

KATSUYUKI MINAMI
Former Vice President Kitazato University,
Honorary professor Kitazato University

Oyako Day Heals the Illness of Separation

We have an expression in Japanese, 古往今来, which the dictionary translates as “in all ages” or “since antiquity”. If you look at the characters, you see “from of old until now”. This expression is not really hard to understand, but these days most of the young don’t know it. People are infected with tunnel vision. They see only dips and dabs from the great tide of humanity’s past and have lost the ability to see the world beyond their present.
“Who are we, where do we come from, where are we going?” This conjecture is forever shadowing us, our groups and organizations, our societies and governments; and through them, nature and all life on our planet. Bruce and Yoshiko’s group express the importance of this proposition in “OYAKO” and reveal it to people through this basic relation.
The “OYAKO DAY” project, based as it is on parents and children, whispers to us of the grandchildren who will come. Japanese already have the word OYAKO. Someday the ferment set off by Bruce’s team will distill a new word, running across all generations.

「親子大使」からのメッセージ

今まで撮ったどんな写真より僕はいい顔をしている。きっとこれから撮るどんな写真よりいい顔をしている。親子って最高！

梅沢富美男
梅沢劇団３代目座長

Tomio Umezawa
Chairman of Umezawa Theater Group / 3rd generation

Out of all the photos that were ever taken of me, I look the happiest. I think this will always be the best photo of me.

7月の第4日曜日は
親子の日

「親子の日」のあゆみ

2003 はじめての「親子の日」

ブルース・オズボーンの自主企画として 100組の親子を撮影

- 「親子の日普及推進委員会」発足

2004 2回目の「親子の日」

「親子の日スーパーフォトセッション」で 100組の親子を撮影

- オリンパスギャラリーにて「親子」写真展
- 第1回「親子の日写真コンテスト」

2005 3回目の「親子の日」

「親子の日スーパーフォトセッション」で 100組の親子を撮影

- 「親子の日」を記念日協会に正式登録
- TV金沢の主催により金沢21世紀美術館で「親子」写真展。会場内特設スタジオでの公開親子撮影会で石川県の親子30組を撮影

2006 4回目の「親子の日」

「親子の日スーパーフォトセッション」で105組の親子を撮影

- 日本外国人特派員協会（FCCJ）にて、「親子」写真展
- 日本写真館協会の主催イベントで大阪の親子 30 組を撮影
- 愛知県児童総合センターで「親子」写真展
- 第1回目「親子の日エッセイコンテスト」
- オリンパスギャラリーで「ブルース・オズボーンと親子写真」

2007 5回目の「親子の日」

「親子の日スーパーフォトセッション」で100組の親子を撮影

- オリンパスギャラリーで「親子の日報告写真展」
- 第1回「親子大賞」
- 愛知県児童総合センターで「親子」写真展
- 能登半島地震の被災者親子写真を撮影。ラポルト珠洲で展覧会
- 石川県珠洲市が「親子の日」を公式制定

2008 6回目の「親子の日」

「親子の日スーパーフォトセッション」で100組の親子を撮影

- オリンパスギャラリーで「親子の日報告写真展」
- 愛知県児童総合センターで「親子」写真展
- 埼玉県越谷市のレイクタウンで「親子＆仲間」写真展

2009 7回目の「親子の日」

「親子の日スーパーフォトセッション」で 100組の親子を撮影

- オリンパスギャラリーで（東京・大阪）「ブルース・オズボーン 写真展～親子の日 2009 に出会った親子～」
- 東京ビッグサイト「Photo Imaging Expo 2009」で撮影とトークイベントに参加
- 毎日新聞が「親子インタビュー」の連載をスタート
- arp の“わたしのこえ”を第1回公式ソングと決定
- 川崎アートセンター企画の「夏休みは親子de 映画」に参加
- 阪急三番街 40 周年記念イベント「親子」写真展
- 愛知県児童総合センターで「家族のうれしい顔」写真展

2010 8回目の「親子の日」

「親子の日スーパーフォトセッション」で104組の親子を撮影

- オリンパスギャラリーで（東京・大阪）「ブルース・オズボーン写真展～親子の日 2010 に出会った親子～」
- 滋賀県米原市が、「親子の日」の制定を宣言
- MOOMIN の「うまれたての瞳」を 2010 年公式ソングに決定
- 「親子大使」制度の導入
- ブルース・オズボーンの写真「親子」が、International Photography Awards を受賞
- 第4回キッズデザイン賞に入賞

2011 9回目の「親子の日」

「親子の日スーパーフォトセッション」で110組の親子を撮影

- オリンパスギャラリー（東京・大阪）で「ブルース・オズボーン 写真展～親子の日2011に出会った親子～」
- 第1回被災地訪問プロジェクトで、福島県相馬市の親子を撮影
- 第2回被災地訪問プロジェクトで、岩手県の宮古市、大船渡市、釜石市、大槌町、田老町、宮城県の気仙沼市、南三陸町で親子撮影を実施
- CIPA フォトエイドの助成を受けて、東日本被災地応援プロジェクト「I TIE ☆ 会いたい」スタート
- 「水源の里まいばら OYAKO“かけがえのないもの”with ブルース・オズボーン」展示会

2012 10回目の「親子の日」

「親子の日スーパーフォトセッション」で 110 組の親子を撮影

- オリンパスギャラリー（東京・大阪）で「ブルース・オズボーン写真展～親子の日 2012 に出会った親子～」
- NHKワールドで、ブルース・オズボーンの活動を世界に向け発信
- 東日本被災地応援プロジェクト「I TIE ☆ 会いたい」のワークショップを、南三陸町、仙台市、大槌町、田老町、相馬市で実施
- 滋賀県米原市ＪＲ米原駅のステーションギャラリーで「かけがえのないもの～東北で出会った親子たち～」写真展示
- 静岡市美術館で「親子写真展～未来の私たちへの贈り物～」展示。ピーター・バラカンとトークショーも
- 「東日本大震災復興支援ブックレット」を制作
- 10周年記念イベントとして「親子」をテーマに映画の製作をスタート
- 赤坂サカス内赤坂ギャラリーで「I TIE ☆ 会いたい」報告写真展
- 兵庫県淡路市、南あわじ市で「I TIE☆会いたい」報告写真展

2013 11回目の「親子の日」

「親子の日スーパーフォトセッション」で103組の親子を撮影

- オリンパスギャラリー（東京・大阪）で「ブルース・オズボーン写真展～親子の日 2013に出会った親子～」開催
- 末広町 3331 で「I TIE ☆ 会いたい」で制作した作品展示会とワークショップ
- 新潟放送主催で「I TIE☆会いたい」展示会とワークショップ
- YMCA 横浜が「I TIE☆会いたい」展示会とワークショップ
- JICA で「I TIE ☆ 会いたい」展示会
- 葉山芸術祭で「I TIE ☆ 会いたい」作品展示会とワークショップ
- クーリーズクリークで、映画「OYAKO」の製作開始の発表イベント
- 世田谷ものづくり学校でワークショップ
- 銀座和光で「親子写真」の展示会
- 六本木の新世界でライブトークイベント
- 山口県下松市が「親子の日」の条例化を宣言
- DAYS JAPAN 主催イベント「いのちの地球に生きる」で被災地の親子写真展示
- 韓国で行われた写真館の全国会議で「親子の日」のセミナー
- 写真館協会のイベントに参加。日本写真館協会とのコラボレーション決定
- 沖縄県那覇市の識名園で親子撮影会
- 山口県下松市で展覧会と映画の試写上映会

2014 12回目の「親子の日」

「親子の日スーパーフォトセッション」で 105 組の親子を撮影

- オリンパスギャラリー（東京・大阪）で「ブルース・オズボーン写真展～親子の日 2014 に出会った親子～」
- 下松市と釜石市の高校生合同のワークショップ「I TIE☆会いたい」を山口県下松市で実施
- 日本外国人特派員協会（FCCJ）で、映画「OYAKO」プレス発表
- 逗子市なぎさホールで、映画「OYAKO」上映と写真展
- 日本写真館協会が実施「第 8 回写真館賞」の審査員
- 東京都写真美術館で基調講演
- 箱根写真美術館で写真展
- 東京都写真美術館で映画「OYAKO」の上映会
- 日本写真館協会が実施「第 8 回写真館賞」の審査員をつとめる
- 東京都写真美術館で、映画「OYAKO」の上映会実施
- 山口県下松市での親子写真展示会＆映画「OYAKO」上映
- 神奈川県庁舎と沖縄の桜坂劇場で映画「OYAKO」を上映
- ネイチャーズベストフォトグラフィージャパン授賞式で基調講演を横浜赤れんが倉庫で行う
- 東北生活文化大学高等学校で「平和を想う日」講演＆映画「OYAKO」を上映
- 一般社団法人日本記念日協会から「記念日文化功労賞」を授与

2015 13回目の「親子の日」

「親子の日スーパーフォトセッション」で 102組の親子を撮影

- オリンパスギャラリー（東京・大阪）で「ブルース・オズボーン写真展～親子の日 2015 に出会った親子～」
- 映画「OYAKO」がベルリン国際映画祭（IFB）でベストドキュメンタリー賞受賞
- 逗子こどもフェスティバル、TAMA 映画フォーラム実行委員会、加茂・久代・小学校区人権啓発推進委員会、お母さん業界新聞主催「乾杯パーティー」などで映画「OYAKO」の上映会
- 日本外国人特派員協会（FCCJ）で「親子」写真展
- 三菱地所・サイモン主催の第２回親子撮影イベント
- 日本写真芸術専門学校で行った写真コンテストの審査委員
- シンガポールの School of the Arts Singapore (SOTA) でトークショー
- 沖縄県立博物館・美術館で写真展
- 逗子文化プラザで写真展
- 第９回社会デザイン学会公開研究会に講師として出席
- 2016 年にシンガポールでの展覧会と映画上映会が決定

2016 14回目の「親子の日」

「親子の日スーパーフォトセッション」で 104 組の親子を撮影

- オリンパスギャラリー（東京・大阪）で「ブルース・オズボーン写真展～親子の日 2016 に出会った親子～」
- 4 回目インターネットで中継を配信
- 第13回目「写真コンテスト」、第11回目「エッセイコンテスト」、第10回「親子大賞」を開催
- 在シンガポール日本国大使館主催の「親子」写真展、撮影会、映画「OYAKO」の上映会を実施
- 「親子の日」を条例化した山口県下松市で、4 回目の「親子の日」イベントを実施
- 日本写真館協会主催のコンテストで 5 回目となる審査委員
- 日本写真館協会と第 4 回目となる事業「親子の日には写真館へ！」を実施
- DAC 主催第 4 回「親子の日絆 (KIZUNA) コンクール」の審査委員長
- 日本写真芸術専門学校で行った写真コンテストの 4 回目審査委員
- TSUTAYA「夏休み宿題大作戦」で「親子の日」についてスピーチ。子ども新聞のテーマとして提供
- 三菱地所・サイモン主催が第３回目となる親子撮影イベント
- BS ジャパン「ワタシが日本に住む理由」で、ブルース・オズボーン特集を放送
- 「湘南の親子の日」第 6 回撮影会
- 「親子の日」への高い評価をいただき、東久邇宮文化褒賞を受賞

金沢 21 世紀美術館での「親子」写真展

Barefoot Studio 撮影風景

米原駅ステーションギャラリー

被災地訪問プロジェクト

「親子の日」10 周年集合写真

沖縄「親子の日」撮影会

シンガポール写真展

日テレ／NEWS24

7月の第4日曜日は
親子の日